



初等部だより 1月号

鎌倉女子大学初等部

令和3年1月7日

第9号

穏やかな1年となりますように

部長 勝木 茂

明けましておめでとうございます。子どもたちをはじめ保護者の皆様にとって、健康で安全な、そして一日も早くコロナ禍が終息し穏やかな一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

新しい年となり、本日より三学期が始まりましたが、新型コロナウイルス感染者の増加は未だおさまる様子が見られず、初等部におきましても引き続き対策の徹底を図っていきたくと考えております。また、昨日メールにてお伝えいたしました、緊急事態宣言発令後も、現時点ではこれまで通りの日程にて教育活動を続けてまいります。ご理解とご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。

対策の徹底には保護者の皆様のご協力が不可欠であると考えます。これまで同様、登校前のご家庭での検温をはじめとするお子様の健康観察を十分に行っていただき、風邪症状（発熱、咳、喉の痛み等）がある場合は医療機関での受診やご自宅での休養などをお願いいたします。報道等によりますと、感染経路の内、家庭内や不明のものがこれまでより増加しているとのこと。万一、関連機関等から濃厚接触者との連絡があった、PCR検査を受けることとなった等があった場合、お子様やご家族のプライバシー保護には最大限の努力をいたしますので、できる限り速やかに初等部までご連絡いただけるようお願いいたします。これらの場合は、ご家族の方の場合も含め登校されなくても「欠席」扱いとはいたしません。

今後の初等部での様々な予定については、感染状況等により、時期や内容の変更、または中止とせざるを得ない場合もあろうかと思いますが、引き続きご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

さて、昨年4月より改訂された小学校学習指導要領が全面施行されました。初等部においても、教育課程の一部を変更し、それに伴い「あゆみ」の型式を変更いたしました。もちろん鎌倉女子大学初等部は私立小学校です

から、建学の精神をはじめ、本学としての特色を実現させることを第一に考えているわけですが、学習指導要領も当然大切にしていかなければなりません。

これまでの初等部だよりにおいても幾度か書かせていただきました「学ぶ」ということ「何のために学ぶのか」については今般の学習指導要領の中にも多くの記述があります。今の日本においては、環境の差はあれども「学ぶ」ことは決して難しいことではないと思います。そのため漠然と学習していることも多く、「何のために学ぶのか」という学習の意義を子どもたち自身が感じる、理解することが簡単なことではなくなっていると思います。「文部科学省 新しい学習指導要領が目指す姿」の中に次のような記述があります。（以下、下線部は引用）学びを通じた子供たちの真の理解、深い理解を促すためには、主題に対する興味を喚起して学習への動機付けを行い、目の前の問題に対しては、これまでに獲得した知識や技能だけでは必ずしも十分ではないという問題意識を生じさせ、必要となる知識や技能を獲得し、さらに試行錯誤しながら問題の解決に向けた学習活動を行い、その上で自らの学習活動を振り返って次の学びにつなげるという、深い学習のプロセスが重要である。

これらをわたしなりに言い換えると、「なるほどそうだったんだ」「簡単そうに見えて結構奥が深いね」「じゃあ、次はどうなるのかな」「一筋縄ではいかないぞ」「そうか、こういうふうにやればいいんだよね」「わたしって結構やれるかも」「学んで楽しいね。もっとやりたいね」ということだと思います。

これらの学習過程を成り立たせるには、質の高い授業と「やらされている」から「やりたくてやっている」という内発的動機付けの部分を増やしていくことの両方が必要だと思います。

子どもたちが大人へと成長していくその基盤となる小学生のうちにこれらを獲得できるそのような教育が出来るよう今年一年初等部一丸となって取り組みたいと思います。